

和歌山県有田市

青みかん（摘果みかん）の価値を上げる



【活動の基本情報】

参加学生数：18名

(1年生：5名、2年生：5名、

3年生：5名、4年生：3名)

活動期間：2020年6月～

担当教員：岸上光克、永瀬節治

1. 活動実施の経緯

有田みかんの産地である有田市宮原地区では、収穫前にみかんの大きさを揃えるために成りすぎた果実を減らす作業（摘果作業）によって捨てられている「青みかん（摘果みかん）」の価値向上に向けた取り組みを、地域の方々と学生たちの協働によるLIPの活動として令和2年度より展開している。青みかんを活用した商品開発やその価値を広めるための取り組みを、令和2年3月に旧駐在所をリノベーションして開設された地域交流拠点「宮原さん家（ち）」をはじめ地域内外でのイベントなどの場を活用しながら積み重ねている。

2. 活動の内容

今年度は、青みかんを活用した商品開発を企業との商品化に向けた準備へとステップアップさせるとともに、これまでも参加してきた宮原町でのライトアップイベント「想繫火」や、あべのハルカスで複数の大学が取り組みを発信する「ハルカス学園祭」に加え、地域の盆踊りやJRの「きのくに線駅マルシェ」での出店も行なった。さらに来年度の活動資金を得るためのクラウドファンディングにもチャレンジし、Webサイトやマスコミ等への記者発表を通じて様々な発信を行なったほか、JICA留学生とともに早和果樹園での「アグリファンフェスタ」に参加して交流を行うなど、活動密度の高い1年となった。

3. 活動を通じて

今年度は継続的に活動してきた上回生と新規メンバーも含め、多数の学生が参加するとともに、活動内容も駅マルシェやクラウドファンディング、JICA留学生との交流など新たな試みにもチャレンジするなど大きく発展した。一方、参加人数が多く活動内容も多岐にわたったことで、学生のチーム間や地域の関係者との間で互いの動きや活動の方向性を十分に共有できないまま進んでいったこと等、プロセスには課題もあるため、最終年度となる来年度は、活動の柱と目標を当初から十分に共有・議論し、これまでの成果と課題を次のステップへと着実につなげていくことが重要であると考えている。

4. 成果ポスター



宮原青みかんLPP活動報告

私たちは有田みかんの生産途中で間引かれて本来捨てられてしまう摘果みかん（青みかん）の価値向上を通した地域活性化を目指して日々活動に取り組んでいます！4年目となった今年度は、特に地域の方々に青みかんの魅力や可能性について知ってもらうことを目的に、地域でのイベントの参加に力を入れて活動を行いました。



【想繫火】 7月16日

想繫火とは宮原町における、地域への想いや人との繋がりを大切に、竹灯笼の灯りとしてライトアップを行うプロジェクトです。想繫火ではイベントの運営、準備のお手伝いと共に青みかんサイダーの販売を行いました。学生も竹灯笼を作成させていただき、貴重な体験となりました！また、学生が考案した商品である“青みかんサイダー”の販売を初めて行う機会でもあり、イベントを通して、沢山の地域の方々と交流をすることが出来ました。



8月13日 【宮原盆BON!! 踊り】

8月には有田市宮原小学校で行われている「宮原盆BON!! 踊り」に初参加し、想繫火に続いて青みかんサイダーの販売を行いました。今回のイベントでは、大きく目標販売個数を増やし、学生と地域でコミュニケーションを取りながら準備を進めました。結果的には目標個数には届かなかったものの、小学生を含め沢山の地域の方々とお話する機会を得ることができ、自分たちの活動を多くの方にお伝えすることができました！



10月29日

【きのくに線駅マルシェ】

今年度初めて駅マルシェに参加させていただき、青みかんサイダー、青みかんパンナコッタ、青みかん和風ソースを販売しました。たくさんのお客様とお話しながら販売し、私たちの活動や商品に込められた想いなどをお伝えすることができました。今後はレシピの改良をさらに重ね、もっと美味しい商品を販売し、多くの方に青みかんの魅力を感じていただきたいと思います！



11月17日

【ハルカス学園祭】

今年度も昨年度までに引き続きハルカス学園祭に出展させていただきました！今回は初めて物販ありで出展させていただき、ストラップやリースなどのドライスライス青みかんを使った雑貨を販売させていただきました。足を止めて下さったお客様や他大学の学生の方をお話するなど交流をすることができ、貴重で有意義な時間となりました！青みかんの活用の可能性の幅を広げるという意味でも、雑貨としての活用の価値や意義を深めていきたいと感じました。



【アグリファンフェスタ】



早和果樹園主催のアグリファンフェスタに参加し、JICA関西の留学生の方々と交流させていただきました。

青みかんについて紹介したり、一緒にみかん狩りを楽しんだり、言語の壁を超えてコミュニケーションをとる貴重な経験ができました！

【商品開発】



青みかんパン酢とスイーツの来年度の商品化実現に向けて、企業の方と打ち合わせを行っています！

【クラウドファンディング】

来年度以降の活動資金を集めるために、宮原青みかんLPPx地域で、クラウドファンディングを実施しました。テレビ和歌山や新聞各社に取り上げていただきながら、広報活動を行い、目標額には達しませんでした。多くの方々からたくさんの方の応援をいただきました。ご支援くださった皆様、本当にありがとうございました！



【今後の展望】

来年度、宮原青みかんLPPは活動開始から5年目となり、LPPとして活動できる最後の1年になります。今年度に引き続き、地域内外へのイベントへの出店を通した青みかんの認知度向上や、青みかんを使った商品の開発の実現を目標に活動していきたいと考えています！また、これまでの活動を今後どう活かし、継続していくのかを模索していき、地域に還元できるように考えていきたいです。

公式Instagram



@MIYAHARA_MIKAN_LPP

2023 年度 LPP 合同活動報告会 実施報告

和歌山県有田市

テーマ：青みかん（摘果みかん）の価値を上げる

報告では、今年度の目標として地域の方々に青みかんの魅力や可能性について知ってもらうことを目的にイベント出店に力を入れて活動を行うことを掲げていたため、一年間を通して取り組んできた4つのイベント出店についての内容をメインに発表を行いました。各イベントの活動内容と、感想や今後に向けた展望などを発表し、一年間の総まとめとすることができました。

コメントシートの質問への回答を掲載させていただきます。

Q. 青みかんの価値向上を通じた地域活性化とのお話でしたが、生産途中で捨てられてしまうみかんの価値を向上させることと地域活性化がうまく繋がらないのではないかと感じたのでどのように活用して地域活性化を目指されるのかをお聞きしたいです。またなぜ青みかんに注目されたのですか。完成品の有田みかんの更なる地位向上でなかった理由もお聞きしたいです。

A. 地域交流の場をつくることや地域の課題解決の糸口となるきっかけとして青みかんを取り上げ、青みかんの商品化や青みかんを使ったイベントの実施を通じた地域活性化を目指しています。

有田みかんは近年耕作放棄地の増加がみられ、気候変動の影響もあって生産量も減少傾向にあります。持続的なみかん産業のために、新たなみかんの価値を見出すこと、青みかん活用モデルによるリスク分散が必要であると考えたことから青みかんに注目した活動を行っています。